

区議会レポート

67号

2020年9月17日発行

発行：

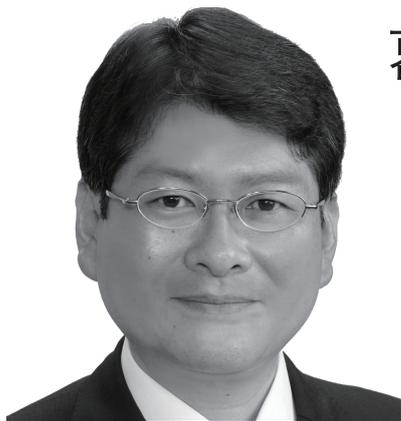
かつしか区民連合

【区議会控室】 〒124-0012

東京都葛飾区立石 5-13-1

電話 03-3695-1111 (代)

f a x 03-3697-0137



葛飾区議会議員

かわごえ誠一

本号の内容

表面：区議会第三回定例会他

裏面：一般質問報告など

葛飾区議会 令和二年第三回定例会開会

◆9月15日に令和二年区議会第三回定例会が招集されました。今定例会は10月14日までの30日間の会期で開催されます。◆今定例会では決算審査特別委員会が設置され、令和元年度決算が10月2日から4つの分科会に分かれて審議されます。決算審査特別委員会の審査結果は後日ご報告します。◆今回の定例会では新型コロナウイルス感染症対策経費を含む第五次補正予算40億6404万4千円が計上されました。以下、ここにその一部を紹介します。

○新生児特別定額給付金 一人10万円給付 2億5676万1千円 ※全世界帯に給付された特別定額給付金の申請期限以降、令和2年4月28日から12月31日までに葛飾区で生まれた新生児への葛飾区独自の給付。

○営業時間短縮感染拡大防止協力金 1億4010万3千円 都の飲食店等の感染拡大防止の時間短縮営業協力金に上乘支給。

令和2年 葛飾区総合防災訓練 開催

◆複合災害想定具体的な総合防災訓練を実施



※区職員による訓練風景

◆去る8月2日に、令和二年葛飾区総合防災訓練が開かれました。今回は、昨年の台風19号での避難所開設と新型コロナウイルス感染症の課題をもとに区職員と

ることになりました。地域の自治町会を中心にした各避難所運営本部の役員、学校の校長・副校長、区の指定職員の合同での実施となり、感染症ガイドラインを



※非接触型体温計使用しての受け付け



※教室での居住空間の確認

元にして、受け付けでの感染症対策や、感染症予防のため距離を確保した居住スペースの確認、また、ペットの受け入れ体制の確認など、具体的な開設訓練が行われました。

地域関係者など約1400名の参加のもと開催されました。午前中は区内の学校避難所の開設、午後には区役所において、台風19号の課題をもとに実践的なシミュレーション、図上訓練が行われました。◆避難所の開設訓練は、初めて区内77カ所の全小・中学校等が同時に開設され

■かわごえ誠一連絡先■

〒124-0012 葛飾区立石8-47-18

携帯電話 090-2932-7315

e-mail : info@kawagoeseiichi.com

かわごえ誠一オフィシャルサイト

www.kawagoeseiichi.com

日々の活動はFacebookをご覧ください。

◆かわごえ誠一プロフィール◆

●昭和38年3月川崎市生まれ ●東海大学第二工学部建設工学科卒業
●立石在住32年 ●一男二女の父親 ●保育園/学童保育クラブ父母会、
小中学校PTA、おやじの会、図書館友の会、子育てネットワーク、保田
しおさい学校、三番瀬保全活動などに携わる。●元東京工業大学附属
科学技術高校非常勤講師 ●本田消防団第四分団員 ●葛飾区ポッチャ
協会会長 ●元都議会議員伊藤まさき秘書を経て平成25年区議会議員
選挙で初当選・平成29年二期目当選 ●区議会所属：文教委員会・副
委員長/地域活性化・区民サービス向上対策特別委員会/広報委員会

令和2年葛飾区議会 第三回定例会一般質問報告

9月15日に第三回定例会が開会し、かわごえ誠一が一般質問に登壇しました。今回は質問項目の一部をご紹介します。

1) 新型コロナウイルス感染症から

「BUILD BACK BETTER」～より良い社会に向けて

◆「Build Back Better」とは東日本大震災の後に語られた言葉で「より良い復興」とも訳されます。この災害ともいえる今求められることは、コロナ前と同じ社会に戻ることはありません。これまでに表面化した課題を克服し、持続可能な発展をするために、誰一人取り残さない、以前よりもより良い社会を目指し、知恵と力を出し合うことが求められています。

Q: 新型コロナウイルス感染症 COVID-19 対策について、様々な観点から区としての成果と課題を検証すべきと考えるのがいかがか。

Q: 今後、歳入面が厳しくなると予想されるが、財政の見直しはどのように想定しているか。

Q: 区長として、行財政改革をどのように進めるのか。

Q: 組織の危機管理の課題として、健康部において通常業務を停滞させないためにも、感染症に特化した組織体制の見直し(管理職の配置)などの検討をしてはどうか。

Q: SDGsに基づく施策を進めるとともに、「ゼロエミッション宣言」の達成に向けてどのように取り組むのか。

2) シティセールスとシビックプライドについて

Q: シティセールスは街の価値を高めることで、本区を訪れたり、定住する方が増え、最終的には地域活性化や人口導入につながる政策と考える。そのために本区として広報の発信だけでなく、戦略的に「シティセールス」を位置付け、部署を超えた連携や、区民の協働をさらに進める必要があるがどうか。

Q: 街の価値は、街の空間や文化、自然環境に対して愛着を持つだけでなく、区民自らが課題解決のために行動を起こしたり、人と人とのつながりに信頼を寄せるなどの関わりによって育まれる誇り・シビックプライドによっても高まる。シビックプライドを醸成するための方策を基本計画で位置づけ、区民の多様な活動の支援を進める必要があると考えるがどうか。

3) 避難所の整備について

Q: 8月2日の総合防災訓練の状況、成果について何うとともに、避難所開設訓練における課題について何う。

Q: 学校避難所の感染症対策について指定職員に対して「感染症に対応するための研修」を進めるとともに、備蓄品の拡充などの整備、風水害が事前に予想される場合の自宅待機の感染症陽性者への事前連絡、濃厚接触者の対応について何う。

Q: 避難所の受け入れ人数は、震災と水害時では想定を変える必要があるが、どのように設定しているか。また、感染症ガイドラインで空間確保が求められているが、受け入れ人数をどう設定しているか。緊急時に受け入れを断らないとしたうえで、事前に近隣避難所との調整が必要になると考えるのがいかがか。

Q: 学校避難所以外の地区センターや体育施設、文化会館などを避難所として開設するための人員配置や、備蓄などの体制整備が必要と考えるのがいかがか。また、区として福祉避難所への支援体制をどのように整備するのか。

Q: 都施設について、区内の都立学校を避難所として開放するための体制整備について何うとともに、福祉避難所として各都立特別支援学校との連携を進めるべきと考えるがどうか。

Q: 「東京マイタイムライン」を活用し、地域での防災意識向上のため、マイタイムラインを基にした区民大学などの講座の開催や、今後受講支援により地域で増える「防災士」を活用した研修を進めることはいかがかか。

4) 子ども未来プラザについて

Q: 「子育て支援施設の整備方針」において、区内を7つの地域に分け、基幹型児童館の施設更新に合わせて拠点施設を区内7カ所に整備するとしているが、子育て世代包括支援センターとして、子ども未来プラザが7つの地域内をどのようにカバーしていくのか。子ども未来プラザ近隣の住民のみがサービスを手厚く受けられるということの無いように、子育てひろばなどの子育て支援サービス・乳幼児健診・子ども応援事業・わくわくチャレンジ広場への支援など、それぞれの事業において機能ごとの対象地域を示し、機能によってはアネックスやサテライトなども視野に入れつつ、民間サービスとの連携も想定していくべきと考えるのがいかがか。

Q: (仮称) 子ども未来プラザ東四つ木建設においては、隣接する浜江東公園と施設の接続や将来的な活用などを視野に入れ、公共空間として一体的な整備を進めるべきだと考えるのがいかがか。また災害拠点としての浜江東公園の連携とともに、整備方針にある「災害時の対応・支援の強化」を実現するための子ども未来プラザの整備をどのように進めるのか。



一般質問に登壇するかわごえ

◆ご報告◆日頃よりかわごえ誠一区議会レポートをお受け取りいただきありがとうございます。区議会レポートとして、葛飾区政の報告を中心に記事を書かせていただき、それ以外のことは控えていましたが、今回、かわごえの政党の所属についてご報告いたします。◆かわごえ誠一は2017年の民進党分裂以来、いずれ、もう一度大きな固まりになるべきと思い、またその架け橋になりたいとの願いで移籍手続きをせず、民進党の継承政党の国民民主党に在籍していました。今回の再編の大きな流れの中で、多くの仲間とともに、新党としての新・立憲民主党に合流することにいたしました。立憲、国民双方とも解党して政党としてはゼロからスタートとなります。国民

の選択肢を提示するための理念とともに、私自身はこの葛飾区で今後も「市民参加」の政治のあり方を模索し続けていきたいと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。◆追記◆9月16日に、新内閣が発足しました。前政権では公文書の扱いが一番の課題だったと思っています。政策決定をどう判断してきたのか、税金がどう使われてきたのか、それを私たち国民がチェックできるのが公文書です。それを権力者が恣意的に改ざんするという事はあってはならないことです。それが疑われてきたことは、新しい政権になったからといって無かったことにしていいことにはなりません。公文書のあり方については、未来を見通して取り組むことを望みます。